



太良町立多良小学校 学校便り 第20号

ゆたたり

学校教育目標 「元気いっぱい 笑顔いっぱい とともに学び合う多良っ子の育成」

令和2年9月11日発行 文責 校長 副島 和久

大学インターンシップ、頑張っています！

9月14日(月)から(実際は臨時休業のため、15日から)本校の卒業生で、福岡教育大学4年生の 中島 朋子 さんが、大学のインターンシップで、多良小学校にいられています。3年1組を中心に、井上先生のご指導の下、毎日、頑張られています。

初日となった15日は、3年1組の子どもたちの前で、全校児童の前で、また、職員の前でと、あいさつする機会が何度もありましたが、笑顔ではきはきと自分の思いを伝える姿を見て、さすがだなあ・と思いました。このインターンシップを一つの経験として、たくさんのことを学び、素晴らしい先生になってほしいと思っています。9月18日(金)まで、2週間の実習となります。しっかり頑張ってください。



学校HPもご覧ください

中島先生からのメッセージです！

多良小学校の子どもたちは、大きな声で挨拶をしたり、休み時間には外で遊んだり、とても元気いっぱい、毎日パワーをもらっています。また、授業では、学習に意欲的でキラキラとした子どもたちの眼差しに、教師という職業の素晴らしさを改めて感じています。

残り1週間、できるかぎり多くのことを吸収して、残り半年の大学での学びに生かしたいと思います。



福岡教育大学4年の
中島 朋子 さん

クレメンティンジュースをいただきました！

9月10日(木)の給食のときに、太良町の山口柑橘園様からクレメンティンジュースをいただきました。太良町内の全ての学校に寄贈していただいているそうです。「クレメンティン」とは、とっても甘くて豊かな香りがする品種のみかんだそうです。

子どもたちは、おいしそうにクレメンティンジュースをいただいでいました。太良町には有名な山の幸、海の幸がたくさんありますが、「みかん」はその一つです。子どもたちが郷土を知るためのとてもよい機会となりました。本当にありがとうございました。

【ジュースを飲んだ子どもたちの感想を聞いてみました。】

- ・みかんの味がしっかりしていて、おいしかった
- ・甘さと酸っぱさのゴールデンバランスが素晴らしい
- ・このみかん(クレメンティンという品種)も食べたことがあるけど、とてもおいしかった

写真は、ジュースをもって笑顔の6年生(上)とみんなで乾杯!2年生(下)



樋口先生、川浪先生 頑張っています！

9月10日(木)は、2時間目に5年2組で、4時間目に3年2組で、初任者の先生お二人の研究授業を行いました。二人とも、算数の授業に取り組み、川浪先生は5年生の「分数」の単元で、分母が異なる2つの分数の大小をどのように調べればよいのかということから、「通分」などについて学ぶ授業でした。また、樋口先生は3年生の「あまりのあるわり算」の単元で、「問題の場面によっては(つまり、日常生活の中では)、あまりを処理する際に、商をそのまま答えとできない場合があります、場面に応じて適切な答えを考えなくてはならないということ」を学ぶ授業でした。



川浪先生の授業では、「 $\frac{3}{5}$ と $\frac{2}{3}$ では、どちらが大きいのか」を考えるときに、分母をそろえる(通分する)とよいのですが、「分子をそろえてもできるんじゃないか」という意見が出て、大変盛り上がりました。最後は、「分母をそろえた方が、どちらがどれだけ大きいのかも比べやすい」などの利点に子どもたちは気付いていました。学級全体を巻き込んで考えてみるとおもしろそうな内容でした。(研究授業で川浪先生はなかなかそこまでの余裕はなかったと思いますが…)

樋口先生の授業では、「35人の子どもが、長いす一脚に4人ずつ座っていくときに、みんなが座るには、長椅子が何脚いらいますか。」という問題で、 $35 \div 4 = 8$ あまり3 というところまでは、ほとんどの子どもがさっと計算をすませ、たしかめ算まで行っていました。それで、必要な長いすは、8脚でいいのか、もっと必要なのか…ということ真剣に考えていました。「4人ずつ座る」ということと、みんなが座るために、余った3人をどうするかということに悩んでいる子どもたちが印象的でした。

「先生が入ると、ちょうどいいのに」というつぶやきが子どもらしいなあと思いました。川浪先生、樋口先生ともに、子どもたちといっしょに日々、成長されています。



西日本新聞「ヤング川柳」一席に入賞しました！

多良小学校では、今年もヤング川柳に取り組み、西日本新聞に応募しています。9月5日(土)付けの新聞で、4年生の田中さんの作品が【一席】で掲載されましたので、紹介します。お題は「ドア」でした。

【一席】病室へ どこでもドアがあったなら

4年1組 田中 かのん さん

【選者 真島久美子さんのひとこと】 感染を防ぐために病院へのお見舞いが一切禁止になっています。退院するまで会うことはできないのです。退院できる人はいいのですが、一人で亡くなられた方もたくさんおられて、残された遺族の気持ちを思うとやるせないですね。病室へつながるどこでもドアならば、ドラえもんも出してくれるかもしれません。

